

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 3月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	1073100388
法人名	社会福祉法人こころみの会
事業所名	つむぎの里グループホーム
所在地	邑楽郡邑楽町中野字久保林2204番地8号 (電話) 0276-88-7619

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年2月26日

【情報提供票より】(平成21年 2月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 5月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9人, 非常勤 1人	常勤換算8.0人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	熱・水費 15,000円・医療費立替分 実	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 50,000円	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	又は、1日 1,000円			

(4) 利用者の概要(2月 10日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 83.6歳	最低	76歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	皆川病院・筑波医院・小林医院・大川歯科医院
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域密着型サービスの役割とケアの目的を職員間で共有し、施設運営を実践している。人と地域を育てるホームづくりに精進し、より良いサービスを提供する為に常に課題を見出し、新たな目標に向かって一丸となって取り組んでいる。運営及び会計状況を職員に開示し、職員からの力強いサポートを受けて運営を行っており、確実に地域に根付いている。施設長は生きがいのある施設づくりと職員の専門性を高める職場環境づくりに努力している。質の高いケアを実践し、安全面においては事故対策会議や事例検討会を開催して事故防止に努めている。生活の中に楽しみを見出す工夫を重ね、施設長と職員、そして入居者とがじっくりと話し合い触れ合い、互いが支えとなって生き生きと生活している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を理事会、評議員会、運営推進会議、職員会議に提示して広い視点で検討を重ね、質の高いケアの提供に前向きに取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価を記入し、それらを施設長が取りまとめて作成している。自己の業務の振り返りと、課題の明確化に役立っている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>入居者の生活状況やホームのイベントの報告、その他会議で得たアドバイスやアイデアを活かしたボランティアの受け入れや地域の人と一緒に参加できる研修会の企画など、地域への社会貢献ができるような取り組みを行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会議を3ヶ月に一度定期的開催し、ホーム側を除いて家族だけで苦情や要望を述べ合う時間を設定している。施設長は取りまとめた意見の報告を受け、運営推進会議や職員会議に提示して検討している。どのような事柄にも真摯に対応し、面会名簿の変更等運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者の手作りのパンを近隣に届けている。併設の保育園児が散歩の途中に立ち寄り、中学生ボランティアを受け入れている。外出のイベントにはボランティアが参加してくれたり、近隣の人が畑の草むしりをしてくれる。美術館や移動図書館の活用や町内行事や老人会に参加して、地域に根付き着実に連携を強化している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症の方が「地域で暮らす生活者」として生きることを支え、その場所作りとしてグループホームを開設した。その志を理念とし、「生活者として役割や趣味を持ち、その人らしく生きがいのある安らかな生活が過ごせるように支援する」と掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員がホームの理念を共有し、新たな取り組みや目標を見出し、理念に即した介護の質の向上と職員のレベルアップの為の研修等に意欲的に取り組んでいる。理念は、リビングに掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域活動に積極的に参加するばかりでなく、夏祭りの休憩所としてホームを開放したり、入居者の手作りのパンを近隣に届けたり地域に貢献した暮らしを営んでいる。ホームのイベントにはボランティアが協力してくれたり、近隣住民が畑の草むしりをしてくれたり、隣接の保育園児が散歩の途中に立ち寄ってくれたり等日常的に交流が行われている。「つむぎ通信」を、地域に配布している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が個々に自己評価票を記入し、施設長が取りまとめている。評価票を記入することで自己の業務を見直し、それぞれが抱える介護の悩みや課題を抽出する機会にしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、入居者の生活状況やイベントの報告、ヒヤリハット事例の相談、住民も一緒に参加できる講座の予告などを行っている。参加者からは、ボランティア活動についてのアドバイスや事例についての参考意見などを頂いている。施設長は、ホーム自らを地域の社会資源と考えて欲しい旨を申し出て、会議の中で具体的な検討が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	「つむぎ通信」や研修会の開催案内などを持参し、ホームの取り組みや介護の現状などを報告している。住民が安心した生活を継続できるよう、地域全体のサービスの質の向上を目指して、地域密着型サービスへの理解と在り方について地域行政と議論を重ねている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に一回の家族会では、入居者の生活の様子や職員の異動など、ホーム全体の状況を報告している。また、支払いや面会等の来園時には健康面や金銭面の個別の状況を伝え、ケアプランについて話し合っている。体調変化時には随時電話で連絡している。入居者それぞれのアルバムを作成し、リビングで家族と一緒に見られるように配慮している。定期的に「つむぎ通信」を発行して地域に配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会では管理者を外して家族だけで話し合う時間を設定し、ホームへの苦情や要望を取りまとめて報告している。家族会からの要望に対応して個人情報に配慮し、面会者名簿をカード式に変更している。また、職員の顔写真をホームに掲示して紹介している。職員が長く定着している状況下で家族との関係も良好に保たれており、意見が言い易い状況にある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者にとって馴染みの関係が大切であることを職員が良く理解し、退職の希望は早期に申し出るようにしている。また、後任職員を早めに決定し、行事等への参加を通して入居者に紹介して徐々に慣れてもらえるように努めている。また、新卒者の採用は3月からアルバイトで雇い入れ、退職予定者と一緒に働きながら馴染んでもらえるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設長は人材育成に力を注ぎ、認知症ケアの専門職として自信と自覚を持てるよう全職員に実務者研修を受講させている。また、県からの出前講座を定期的に活用してホーム内で研修会を開催し、現場の実状を全職員で共有している。受講の際には研修の目的を明確にして研修効果を高めている。働きながら必要な資格を取得できるよう職員間で協力し合える体制を作り、計画的に資格取得者をあげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、交換研修会やブロック別研修会に参加しており、同業の職員と交流する機会が多い。ホームで開催する研修会には地域の介護事業所に案内を出し、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には極力デイサービスの利用を勧め、体験宿泊を行うなどして徐々にホームに馴染めるように家族と相談しながら対応している。入居直後は家族の協力を得て面会の機会を多くし、不安を最小限に止められるように工夫している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の暮らしの中に、入居者が活躍できる場を多く持つよう工夫している。掃除や畑仕事、食事作りやパン作り等職員と一緒に楽しみながら取り組んでいる。季節行事や慣わし、農作業や包丁さばきなど入居者主導の場面もあり、職員が相談したり教えてもらったりしながら、互いに支え合って生活している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントを基に、一人ひとりのこれまでの暮らしを知り、これからの望みや生活の意向を把握することに努めている。家族や友人、民生委員等から情報を得て、その人らしさを大切にしたい暮らし方ができるように検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、本人をよく知る人から聴取した情報を参考にして作成している。計画の見直しの際には家族の要望を必ず確認し、介護担当職員とケアマネージャーで話し合い、更に全体会議で意見やアイデアを出し合い、それらを検討して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月に一度、ケアの実施状況をモニタリングし計画を評価している。3ヶ月毎に再アセスメントを実施して介護計画を見直している。状態変化等に併い介護計画の変更が必要になった場合には、随時見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と共に過ごす為の外出や外泊を支援している。また、家族がホームに宿泊することにも協力的である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が希望するかかりつけ医に受診している。協力医療機関への受診は、定期的に職員が付き添っている。検査や異常時、また協力医療機関に無い診療科目については、家族の付添としている。協力医療機関及び協力歯科医院は、往診にも対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に説明し、重度化した場合には再度意向を確認している。かかりつけ医と家族(できれば本人も)及びホーム職員とで今後の方針について話し合い、看取りが行われる場合には家族と確認書を交わしている。関係者全員が連携して、本人の状態をタイムリーに把握できるようにしている。これまでに5名の看取りが行われている。		
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	尊厳を重視した介護を心がけ、誇りやプライバシーを損ねることのないように十分配慮している。基本の呼び方は「さん」づけだが、その人の好む呼び方を優先している。排泄介助の際には、「○○さん、ちょっとこちらへ・・・」と、他者に気付かれずに誘導している。個人情報の取り扱いに留意し、入居者の記録はスタッフデスクで管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に日課は定めず、季節や天候、入居者の健康状態などを配慮して、その日の過ごし方を決めている。食事時間や買い物の希望など、一人ひとりのペースに合わせた過ごし方を支援し、日々を楽しく送れるよう工夫している。それぞれのレベルに合わせて体操や散歩、掃除などを取り入れ、ティータイムでは好みのお茶やコーヒーなどを提供している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は入居者の関心事であり、献立づくり、買い物、食材切り、味付け、盛り付け、配膳、下膳、後片付けなどそれぞれができる事を協力し合っている。「いただきます」を一緒に言い、その後はその人のペースでゆったりと食事をしている。必要に応じて職員が介助している。刻み食、粥食、とろみ食にも対応し、おかずは食べられる物を工夫して調理している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本を週に3回とシタ食前の時間帯に入浴しているが、希望があれば随時対応している。入居前の生活習慣を継続できるように配慮し、好きなテレビ番組の時間を外したり、就寝前の入浴など希望に応じて支援している。車イス利用者はシャワー浴を基本としているが、スタッフ2名体制でできる限り浴槽に浸かり心地良い入浴を提供している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式を活用して、その人らしい暮らし方や楽しみごとなどをアセスメントし、それを生活に位置づけている。畑仕事を生きがいとする入居者や、調理の手伝いを率先して行う入居者など、その人に合った役割を見出し継続できるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には、個別の希望に沿って買い物や床屋などへの外出を支援している。また、近隣への散歩や庭先でのティータイムなど、気候の良い時期には戸外で過ごす時間を多く持てるようにしている。季節に合わせた外出として、お花見やクリスマスイルミネーションの見学など、遠方へ出かけることを恒例としている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中は施錠せず、入居者が頻繁に出入りしている。センサーを設置し、出入りをチャイムが伝えている。入居者の外出には職員が必ず付き添い、しばらく散歩して気分転換をしてから戻って来る。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導の下で、入居者参加による年に2回避難訓練を実施している。入居者の避難誘導については、運営推進会議で地域に強力を呼びかけ、日頃から地域活動に参加し関係作りに努めている。緊急時連絡網を作成し、実際に機能するか否かを確認する為に予告無しの訓練も行っている。また、消防署員の話や、地域の方も一緒に聴く機会を設けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量は、毎日チェックして記録している。食事制限のある入居者や摂取量が減少している入居者については、医師に報告して指示を得ている。食欲が無い入居者には好物を提供したり、形体を変えたり工夫して提供している。嗜好と摂取量を毎月調査し、1ヶ月に一回開催する給食会議で一人ひとりの情報を共有して栄養面の問題点を解決している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには対面型のキッチンが設置されている。人の気配と調理のにおいが漂い、安心感と家庭的な心地良さを感じることができる。リビングからは花壇や畑が見わたせ季節感を感じる。夏には各居室の窓に昔ながらのすだれを掛けて光や室温を調節している。季節行事を大切にし、鏡もち、ひな人形、鯉のぼり、七夕飾りなどを楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、その人が入居前から馴染んできたタンスやつくえなどが持ち込まれている。タンスには好みの衣服が整理され、壁には家族の写真が飾られて、安心して過ごせる居室になっている。仏壇を持ち込んで仏様を守っている入居者もあり、その人らしい暮らし方がそれぞれの方法で工夫され守られている。		